

《研究ノート》

南台科技大学夏期研修における日本語授業

水 野 恵 子

Japanese Lessons in the Summer Training Session of Southern Taiwan University of Technology
KEIKO MIZUNO

キーワード

集中研修 (intensive training), 作文 (composition), 会話 (conversation), スピーチ発表会 (speech presentation), 学生参加 (participation of students), 日本語教育 (Japanese language teaching)

1 はじめに

台湾の南台科技大学と流通経済大学との間には、1996年に交流協定が結ばれ、その翌年の1997年夏より国際言語教育センターによる短期日本研修計画が始まった。これは南台科技大学学生が本学を訪れて短期研修を受けるものである。「日本研修」とあるように、内容は日本語学習と日本文化・社会の実際に触れることを目的として、日本語集中授業と見学・観光の両面がある。私の担当したのは、前者の日本語授業面のみであるが、発足より今年は10年目に当たるのに際して、今までの実践を授業研究の一資料としてまとめてみたいと思う。

2 南台科技大学と実施年

南台科技大学は台南県永康市にあり、1965年、5年制の南台工業技芸専科学校として開校した。1996年南台技術学院と改称、その後1999年に大学に昇格、南台科技大学として現在に至っている。工学部、商学部、管理学部、人文社会学部、デジタルデザイン学部があり、研修には人文社会学部の応用日本語学科（応用日語系）学生を主に、応用英語学科学生（応用英語系）、その他学科生の参加を見た。

今まで6回の研修団訪問があったが、その実

施年度、期間は次の通りである。なお2003年度はサーズ流行、今年2006年度は学内施設改修中のため受け入れはなかった。

第1回	1997年	7月10日～7月19日
第2回	1998年	7月9日～7月17日
第3回	1999年	7月21日～7月29日
第4回	2002年	7月17日～7月25日
第5回	2004年	7月13日～7月22日
第6回	2005年	7月12日～7月20日

以下、各回に目立つ事項のみ簡単に記す。

第1回、1997年度の学生は南台技術学院日本語科3年生で、男子5名、女子17名の22名、年齢は17～18歳であった。日本語の水準がわからないため、評価表で面接を行った。授業前の短時間に実施したが、社会学部古田教授、流通情報学部片山教授のご協力をいただいたことが思い出される。この結果、中級前期教材に急遽変更した。開設当初の日本語授業には、当時の国際言語教育センター、高崎非常勤講師のご助力をいただいた。

第2回、1998年度は、女子のみ22名、6号館実施のため手洗所が不足した。前年より日本語力は高くなったが、団員の日本語学科学生と英語学科学生の日本語力に差があり、前年と同じく一部授業は2クラスに分けて対応した。

第3回、1999年度は19名（男子1名、女子18名）であった。南台科技大学となった日本語科

の学生の学習歴4年、日本語能力試験も2級合格1名、3級合格10名ということで、教材からは前期段階のものを外した。

第4回、2002年度学生数は、20人（男子4名、女子16名）、日本語科、英語科混成であった。学力差の問題があるが、前回より授業は最終日スピーチ大会の2会場設定以外は、すべて1クラスで行うようにした。

第5回、2004年度の研修生は20名（男子5人、女子15人）、日本語科学生は3名いたが、残りは、日本語初歩で文法、作文は未学習という経済・経営・観光・工学・情報関係学科など17名の混成団であった。このことは、到着後判明し苦心したが、1クラス態勢では適切な対応は難しく、むしろ観光重点へと研修目的を切り替えるべきだったかと思われる。7号館実施であったため教材、教具の運搬、学生の移動に手間取った。

3 2005年度研修

前回の第6回2005年度研修については、やや詳しく記すことにする。

団員は男子5名、女子15名、全員が応用日本語科学生で2年生7名、3年生8名、4年生2名である。日本語学習歴は、1年から2年までの者が3名いるが、ほとんどが3年以上で、5年以上6年の者も3名いた。日本語能力試験では2級合格者10名、3級合格者9名、不明1名ということである。今回は来日前にカリキュラム、使用教科書についても連絡を受けることができた。

日本語授業は、来日、帰国の移動日、全日見学日、休日の自由行動日を除いた残りの4日間で計12コマある。見学などの関係で第二日（水）、第五日（土）は午後も授業を設定した。

次に研修計画表を挙げて、具体的な日程を示す。〔 〕内は日本語授業以外の主な活動である。

第一日 7/12（火）台湾→成田→大学
（成田着 18:13）

第二日 7/13（水）〔第1限 オリエンテーション〕

第2限 ①-1 挨拶、予定

①-2 現代詩・歌、作文予告

第3限 ②-1 会話練習

②-2 インタビューシートの完成

第4限 ③-1 作文の書き方 ③-2 聴解

第三日 7/14（木）

第1限 ④-1 専門講義

④-2 インタビュー（本学学生が対象）

〔午後見学－国立歴史民族博物館、成田山〕

第2限 ⑤ディベート（本学学生の支援、審判）

第四日 7/15（金）〔全日見学－東京ディズニーランド〕

第五日 7/16（土）

第1限 ⑥-1 作文作成

第2限 ⑦-1 読解テスト ⑦-2 応用表現
（⑥-2 作文添削）

第3限 ⑧-1 読解 ⑧-2 スピーチ準備

〔茶会－茶道部、バーベキュー大会－ゼミ、その他学生〕

第六日 7/17（日）〔全日自由行動〕

第七日 7/18（月）〔全日自由行動－筑波山〕

第八日 7/19（火）

第1、2限 ⑨発表練習指導

第3限 ⑩スピーチ発表会（2会場）
審査員講評

第4限 修了式

第九日 7/20（水）本学→成田→台湾
（成田発 16:25）

①～⑩の授業担当者は次のとおりである。

①水野 ②社会学部立川講師 ③水野
④-1 社会学部根橋教授 ④-2 水野 ⑤水野
⑥-1 水野 ⑥-2 水野・立川講師 ⑦国際言語教育センター水野（あ）非常勤講師 ⑧立川講師 ⑨国際言語教育センター金子（有）非常勤講師・水野（あ）非常勤講師 ⑩水野・立川講師・国際言語教育センター長 経済学部安田教授・同学部村上助教授・社会学部東助教授・法学部山崎助教授

4 日本語授業のねらい

日本語研修授業では、日本滞在の利点を生かした学習こそが望まれる。

目標としては、

- 1 日本語・日本文化への理解を深め、行動に役立つ日本語を学習し、話す、聞く、読む、書く、の四技能の向上を目指す。
- 2 日本の大学における学生体験をする。

の二つを立てた。

2は、集中日本語授業計画の中では、専門講義の一端に触れる(④-1)、本学学生にインタビュー、ディベートの会話授業に参加してもらう(④-2・⑤)などになる。

研修期間は短い、目標に合わせて項目を絞り、興味ある学習ができれば、研修生は日本語環境の中でその知識を活用して、相当の実力向上が図れるのではないかと。また、日本人との生きた会話をととして、生活の中の日本文化や日本人の考え方にも触れ、日本理解を深めることができるであろうと考える。

研修生にはそのままでは学部授業は適せず、また連続して同じ内容の授業はできない。語学力に合わせて、種々の学習を積み重ね、最終日のスピーチ発表会によって締めくくる。すなわち①～⑩がそれで、以下は、その内容の概略である。

①-2 詩教材は、中級程度の学習者でも、一通りの言葉の理解を突き抜けて深いところまで至り、興味や感動を得させることができる。授業の最初に学習者の気持ちを盛り上げる。積極的に声を出して授業に参加させるため、歌も歌わせる。日本語歌詞も学習するが、学生がよく理解して歌うことができるもの、曲の楽しいものを選ぶ。

②-1 会話のために必要な語彙、表現、対話形式を具体的な楽しい場面によって学習し、練習を繰り返す。②-2 インタビューのしかたを学び、いろいろな質問事項を前もって準備し、翌日の実践を目指し練習する。

③-1 作文は、外国語学習の難しい所であり、重点的に指導する。初めに「日本で見たこと」をテーマに400字から800字までの長さで、滞在中の経験を書くことを予告しておく。③-2 聴解は、テレビ番組から作成したビデオで行うが、見学予定地の筑波山のビデオも入れる。学園のよって立つ地の自然の美しさを知るためである。

④-1 内容を易しくし、時間を短縮した大学の専門講義にも挑戦させる。当年度は社会学部根橋教授の地域観光についての講義で、今まで古田教授、経済学部山本教授からも講義をいただいている。④-2 授業後半はインタビューで、研修生数人ずつ1グループになり、本学学生に「趣味は何ですか」「台湾に来たことがありますか」「将来の夢は何ですか」、その他の質問に答えてもらい、さらに会話の発展を図る。

⑤ ディベートは、2グループに分かれて、決められた時間内に立論、尋問、反論、総括の過程を経て勝負を決する。研修生たちは、自分の考えを日本語にまとめることに苦心していた。発表力にはかなり差があるので、グループのリーダーが発言をまとめた。時間内で相手を納得させる意見を出さなければならない緊張が、また各自の達成感につながったようだ。今回は、本学学生が審判を担当したが、判定に説得力があった。ディベート終了後の感想文では、「初めてディベートに参加していて、緊張しました。発表した時に胸がドキドキしましたが、めずらしい経験でした」などと多数が書いていた。

⑥-1 作文の書き方、原稿用紙の使い方などを学習、予告の作文を書く。すでに国立歴史民俗博物館、成田山、東京ディズニーランド訪問後なので、書くことはたくさんある。⑥-2 添削して当日返却、その後各自が清書して発表会に臨む。

⑦-1 ディベートのまとめとして、テーマ関連の読解テストを行い、理解度を見た。⑦-2 表現活動の応用として俳句作りを取り入れた。俳句についての解説後、いくつか作らせ、自信

作を大きな「短冊」に書いて黒板に並べた。各人が自作を読み上げ内容を説明するが、これも初めての経験で、楽しかったらしい。「夏祭り浴衣を着るとたのしいな／ひまわりがわたしに向かって微笑んだ／花火見て夏の祭りは最高だ」など素朴な情感がほほえましい。

⑧-1 新聞の記事も外国人には興味深い。読者投書欄の文章などを利用する。事柄は日本社会日常の出来事であるが、日本語テキストにならないような語句、表現に注意して、これらを取り越えさせる。⑧-2 ここでは最終日のスピーチ発表のしかたや表現についての指導も行う。

⑨ スピーチ発表会の発表準備をさせる。本番ではできるだけ原稿を見ずに話さなければならぬので、午前中第1, 2時限は発表練習と暗唱で忙しく過ごす。

⑩ スピーチ発表会は時間の都合で10人ずつの二組に分かれ発表する。当日は、各自が互いのスピーチを聞いて評価表に記入をする。審査員の先生方からは懇切な講評と激励をいただいた。

研修生は中上級程度の実力で読解力にすぐれ、関連する知識が広い。学習態度も素直で明るく、よく努力する。

日本語会話及び作文の力は、読解に比べると低くなるが、アンケートの回答によれば、本研修によりかなり自信を得ることができたようである。台湾では教室以外では、日本語会話の機会は得にくいようだ。アンケート回答文や作文からは、文法や表現にも指導余地のあることに気付かされるが、重点項目の授業としては、これでよいと思う。

修了式には野尻学長が出席され、修了証が授与された。

5 学生の授業参加と交流

日本語授業の一部に本学学生も参加してもらう。学生との交流は、研修生も望んでいる。今まで古田教授、山本教授、根橋教授のゼミや授業の学生たちに、インタビューの相手、また

ディベートの協力員、審判員となって参加してもらった。研修実施期は毎回、春学期試験中となるにもかかわらず、多くの学生—この中には運動部学生、北京留学予定、またすでに留学終了した学生や本学留学中の外国人学生もいて、入れ替わり参加してくれた。

さらにボランティアで休日の自由行動日には大学近辺のみならず、都内の案内をし、帰路や迷子を気遣って夜遅くまでの世話がいったなどを後で聞き驚くこともあった。本年も根橋教授ゼミの学生初めその他国際観光学科や学生会等の有志学生の多数参加があり、研修生は放課後ゼミのバーベキュー大会にも招待された。

例年のように茶道部学生は早くより準備を始めた。当日茶会は茶道指導の先生も来られての研修生接待で、女子学生には浴衣体験の特別企画もあった。これらはすべてが研修生にとって、日本の大学生と交流、日本語会話のできるよい機会なのである。

まことにありがたい支援であるが、本学学生にとっても、研修生との交流は外国への関心を広げ、また将来の国際的な活動を志す契機とならないだろうか。同時代を生きる若者同士の心の交流が、外国の近さ親しさを実感できる好機会となれば幸いである。

6 スピーチ作文とアンケート

研修生の活動の様子をスピーチ作文とアンケートから見ることにする。

初めに2005年度学生の発表したスピーチの原稿2編を紹介する。ちなみに研修生の作文では、ディズニーランド訪問を書いたものが圧倒的に多かった。

日本で経験したこと

3年生女子(23歳)

今回日本に来る事は私にとって初めての経験です。出国の初体験、出発日前からずっと楽しみにしていました。日本に着いた後、すぐバスで流通経済大学へ来ました。いろいろなものが台湾と違います。自動販売

機とか店とか、全部めずらしいです。そうして学校の食堂の中とか別の漢字があります。料理はおいしいです。

日本に来て、一番慣れない事はお風呂です。友達と一緒に風呂に入って、ちょっとはずかしいし、照れ臭いです。別にスタイルがいいボディではありませんから。でも、以前台湾でテレビの中で銭湯を見ました。それをついに経験しました。これは今までにない経験です。

この間、友達と一緒に学校の近くをあちこち歩き回って、スーパーとか中古CD店などに行きました。そうして、焼き鳥とラーメンを食べて、おいしかった。店長さんもやさしいです。

そうしてディズニーランドも行きました。でも、途中でちょっとめまいがしました。高いところに弱いから。一番うれしかった事は、ディズニーの人物と一緒に写真を撮ったことです。自分がまるで夢を叶えた子供みたいで、本当にうれしかったです。

自由行動の日は、クラスメート5人で巣鴨とか、原宿とか渋谷などへ行きました。人がたくさんいてすごかった。記念品もいっぱい買いました。でも、やっぱり時間が足りないの、ゆっくり見ることができません。1週間の間、歴史民族博物館と筑波神社とエキスポセンターへ見学に行きました。すばらしかったです。私は神社が好きで、開運などのお守りをいっぱい買いました。本当に楽しくて、日本に来てよかったと思います。先生と流通経済大学の学生さんたちもやさしくて、皆お疲れさまでした。本当にありがとうございました。以上で私の話は終わります。

ディベートの経験

4年生男子 (29歳)

今日は「日本語でディベートした経験」についてお話したいと思います。

今までディベートした経験はありませんでした。研修予定表に印刷したスケジュールを見て、大変驚きました。心の中で愚痴をこぼしていました。でも、くらいやと言ってもらいたくありません。これも研修の一部ですから、全力でしようと思ってやりました。

普段はあまりしゃべらない私が立論と反論などをメモに記入する役となりました。みんながディベートのテーマに驚きました。難しいと思いましたが、水野先生は「要点だけでいい」と言いました。そこで、みんなが相談すると、要点がだんだん出てきました。そして、論点を述べてから、相手の論点を聞き取って、反論を作りました。結局、こちら側が勝ちました。

ディベートということは初めて、それに日本語でやりました。いつもはあまりしゃべらないクラスメートといっぱい話し合っただけで向こう側と争いました。本当に珍しい経験だと思います。

ディベートで女性がいいという立場になりましたが、実は男性のほうが良いと思っています。ところが、ディベートする時、女性も色々な利点があるのがわかりました。[略]

もし生まれ変わったら、女性に生まれたほうが良いかもしれないという考え方に気が付きました。

「日本語でディベートした経験」についての私の話は、以上で終わります。

次は研修最後に行ったアンケートの結果である。

アンケート項目では、学生たちの来日経験を聞いているが、経験のある者5人(内1ヶ月以上は2名)、ない者は15人で、ほとんどが今回が初めての来日である。

将来の希望としては、[留学8名、就職7名、進学5名]とあった。

「日本研修に参加したあなたの主な目的は何ですか」に対して、回答は、「日本語力の向上、授業体験」9名、「日本語学習と見学・観光」4名、「日本人と話す、学生との交流、会話力向上」9名、「日本を見る、日本文化をもっと知る」5名、「食文化などの体験、買い物」4名などとなる。南台科技大学学生は教室の日本語学習だけでなく、短期間ではあるが、日本の実社会と文化に触れ、日本人との交流、会話を期待し、またさらに観光や買い物を楽しみにしていた様子がわかる。これらの目的が達成できたかについて尋ねると、[できた12名 だ

いたいできた8名 あまりできなかった3名]とあり、できたと感じているほうが多い。

以下、質問項目と回答数を整理したものを示す。

1 日本語授業について

[むずかしかった 3名 ちょうどよい 13名
やさしかった 3名]

2 授業で学習したことの実践

[いろいろ使った 8名 少し使った 11名
不明 1名]

3 日本人と話す機会

[たくさんあった 13名 少しあった 7名
まったくなかった 0名]

4 会話の相手

[本学学生、教職員、学外の一般人—親切なおじいさん、食堂、ストアの店員、道を尋ねた人、居酒屋、焼鳥屋の主人・ママ]

5 研修の中でよかったこと（理由を含む。原文のまま）

○めずらしい経験をしました。（スピーチ）台湾ではこの経験はすこししないです。○インタビュー、ディベート。日本の学生との交流。以前こんなことはできない。今日本に来た、いろいろなことをできます。○歌を歌う。ディベート大会。インタビューの練習、スピーチ発表。おもしろいです。忘れないとおもいます。インタビューの時、日本人と話す機会があります。日本人の学生とであって本当によかったと思います。日本人といろいろしゃべっちゃって、会話練習に役に立ったと思います。台湾ではそんな機会はないですから、よかったと思います。○スピーチ発表。学生は人前でしゃべるようになったと思います。○スピーチやディベートなどの授業は私にとって役に立ちます。授業の難易度はちょうどいいと思います。○聴解能力が進んでいたと思いました。きっと日本語をきいて話した機会が多くなりましたから。日本へ行ってきて、いろいろ親切で本当に礼がある人々（店員さんとか）に出逢って話して感心しました。○いっぱい日本語で話した。台湾ではあまり日本語をしゃべる機会はなかった。○わからない言葉を学んで会話はだんだん上手

になりました。○いろいろな機会日本語を練習した、話したりします。○日本人に知り合い、日本語で会話する。○会話、読解。自分の能力を上げられることです。○日本人と話す機会がふつうより多いので、よかったです。異なる文化を実際に体験しました。言語を学ぶのは一番大切なポイントは話すことです。ですから、話す機会が増えてうれしいです。○台湾ではこの経験はすこししないです。○俳句、歌を歌う。日本の先生、学生さんと交流します。おもしろくて、日本のことをよく知ります。○俳句をつくること。それは日本の伝統的文化です。○作文の書き方。会話の練習。日本語学習歴は4年ですけど、作文の書き方の授業は学びませんでした。役に立つと思います。会話の練習は日本語能力が強くなれます。○先生たちやさしいです。いろいろな所へ行きました。日本の事がもっと知りました。皆に出会いよかった。日本に来てよかったと思います。○ディズニーランドで遊ぶことです。楽しかった。日本の食べ物を食べました。美味しい味です。○一緒にバーベキュー。ディズニーランド。楽しかった。おいしかった。学生さんはおもしろかった。○流通大学の学生と知り合ったことは本当にうれしくて、よかったと思った。自由行動の日久しぶりに友達と原宿とか渋谷とかお台場などに行ったことです。みんなやさしくて親切なんだと思っています。いろいろなことを教えてくれて、本当にうれしいです。○ディベートはとてもおもしろいと思います。私は日本語が下手です。でも独特な経験です。

6 その他感想（回答は18人。その一部）

○日本は本当にきれいで、日本人は想像より親切です。よかったです。JRはあまり複雑ではありませんから、安心した。○流通経済大学に来てよかった。キャンパスのまわりの景色がいいです。[略] ○[略] 日本へ来られて、日本人の学生さんと友達になれて本当によかった。一生にも忘れられない。○今回の研修で色々な物事にあって、日本と台湾の文化の違うところがすこずつわかってきました。○[略]「スピーチを準備してください」と話すと、心配しました。今、発表後、よかったと思いました。○スピーチ原稿私は日本語下手です。でもまじめ日本語勉強しました。○（ディベートの）審判の学生は

専門的だと思いましたね。どちらが勝った理由を、みなさんに詳しく説明しました。よかったと思いましたよ。

7 終わりに

研修実施において、問題となったところを振り返ってみる。

今回研修生は日本語科学生であり、目的意識が鮮明で、日本語力もほぼ均等であったので、研修はかなり望ましい形で実施できた。今までは学力、学習意識ともに差がある各科混合の研修団である場合が多く、十分対処しがたい感のある年もあった。

そのような準備の必要上研修生の日本語力や編成については、なるべく早い段階から情報がほしいと思う。前もって状況を把握した上で、実施のあり方を検討するという手順を希望したい。

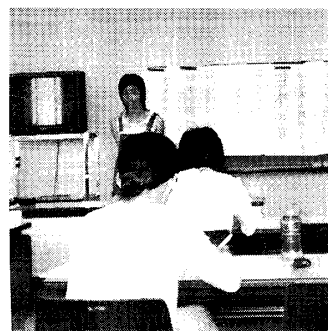
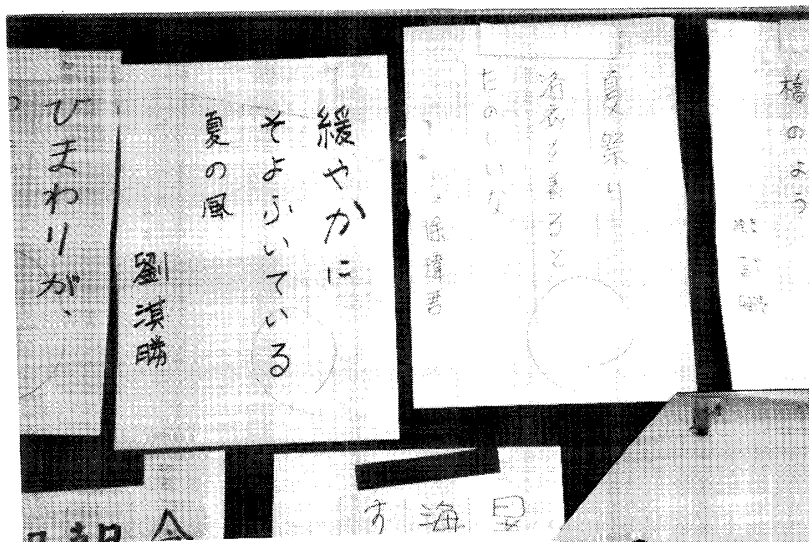
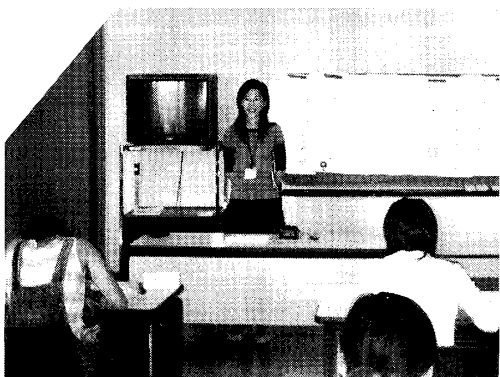
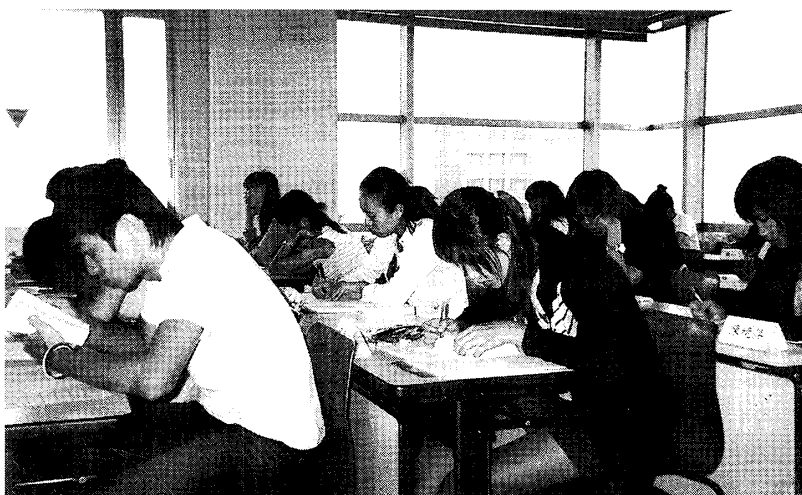
今回、学生とともに過ごされた付き添いの応用日語系楊素霞助理教授は、進歩を評価してくださったが、今後も最終日には南台科技大学の

先生とともに学生の努力の成果を喜びたいと思う。

最後に日本語授業の運営は専任日本語教員の担当だが、一部は主に国際言語教育センター非常勤講師のご助力を得てきた。その外にも小講義、そしてスピーチ大会審査員にと、日本語教育に遠い教科の先生方にも多大のご協力を願ってきた。また日本語授業に直接関わらないところでお世話くださり、研修生を温かく迎え入れ、ご指導くださった学内多数の方々のご理解とご協力がなければ、本計画そのものが成り立ちがたいものであった。

すでに回を重ねた本計画を忽卒にまとめた小稿においては、記載に漏れたところも多々あると思う。特にご協力くださった多くの教職員の方々、学生の皆さんのご尽力の数々とそのお名前を挙げられぬことにためらいがある。

ただ、今後交流の新たな発展を願う一人として、これまでの「南台科技大学日本研修」日本語授業の経過と内容の大体をご理解いただき、ご協力を賜る際の一助となればと思う次第である。ここに皆様のご寛恕を願うとともに、心かなる御礼を申し上げたいと思う。



2005年7月12日～20日
南台科技大学日本研修団
日本語授業，見学風景



